



良品質な粟東米を目指して

いよいよ平成30年産の水稲栽培が本格的にスタートする時期となってきました。この時期にしつかりと田植え前の準備をしておくことで良品質の米をつくることができます。

今回は、田植えまでの土づくりと深耕についてご説明します。

☆水稲の土づくりについて

皆さん、平成30年産水稲作付のための圃場の土づくりはできていますか？稲作では「米づくりは土づくりから」と言われるように土づくりは稲作の基本です。

土壌は土づくりをせずに放っておくと、腐植の消耗・堆肥成分の流亡、水稲による肥料成分の吸収により痩せていきます。そのため、継続的な土づくりが大切です。

まだ間に合います！ 土づくり資材の施用！

通常では土づくり資材の施用時期は、水稲の刈取りが終わった秋期から冬期の間に施用します。

土づくり資材を施用することによって、昨年に水稲が吸収した養分を補給することができます。

秋期から冬期の間に土づくり資材の施用が実施できていない圃場については春先の散布でもまだ間に合いますので土づくり資材の施用を行ってください。とれ太郎などの土づくり資材は水にほとんど溶けず、根から出る弱い酸に触れて初めて溶けるので成分が流亡することはありません。とれ太郎をまだ施用できてない場合は、春先の水田耕起時や基肥施用時に80kg/10aを施用するようにしましょう。



☆耕起の時は耕深15cmの深耕を実践しましょう！

圃場の浅耕化は、水稲の根域の減少、登熟時期の根の活力低下及び収量の減少や品質低下の原因となります。深耕（15cmを基準）に取り組むことにより水稲の根域を拡大することができます。

深耕によるメリット

① 倒伏の軽減

深耕により根の活力を高く維持し稲体の健全化を図ることができ登熟後期まで根の活力を高く維持することができ生葉数が増して、葉鞘の支持力が高まり倒伏が軽減できます。

② 根の活力維持

溝切り・中干しを適期に実施し生育を調整するとともに、登熟期は飽水管理により地力窒素の発現を促すことによって、後期栄養を維持することができます。

③ 障害に強い稲

高温や強風により稲体に水分ストレスがかかる際に土中からの水分供給によって品質の低下や胴割粒を防ぐことができます。



深耕で元気な根が張った水稲

訂正とお詫び

メイク2月号（No.735）の「水稲」記事（11ページ）に誤りがありました。正しくは以下の通りです。

【誤】いもち病（図1）
クログワイ（図2）

【正】いもち病（図2）
クログワイ（図1）

読者の皆さまに迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。



免税軽油制度延長に伴う交付申請書事前受付について

現在、平成30年3月31日をもって終了予定となっている免税軽油制度について、一部を除き3年間延長される見込みとなりました。

このため、4月1日以降、申請窓口が大変混雑し、申請を受付してから交付までに通常よりも日数がかかることが予想されます。

つきましては、4月初旬に速やかに交付できるよう、下記のとおり、交付申請の事前受付を行いますので、年度初めに免税軽油の購入を予定されている方は、お早めにお越しいただきますようお願い致します。

事前受付開始日 **平成30年2月15日(木)から**

受付場所 **JA栗東市農産部営農課窓口**

※事前受付では申請書のお預かりのみを行い、交付は4月1日以降となります。

お問い合わせ JA栗東市 農産部営農課 TEL 552-0575



良い土が良い野菜を育てる！
定植前の土づくり！

温かくなってきたと春夏野菜の土づくりの始まりです。定植前にきちんと土づくりをするだけで定植後の野菜の生育は大きく変わります。今回は春夏野菜の畑の準備についてご説明します。

野菜にとって良い土とは

野菜に適した畑土とは

- ① 水はけが良く適度に空気を含んでいること
- ② 水持ち(保水力)が良い
- ③ 土壌の酸度(PH)が適正
- ④ 病原菌や害虫がいない
- ⑤ 肥料分に富む

などです。①～④は耕起や土づくり資材の投入、⑤は適切な肥料の施肥によって達成できます。

土づくりのポイント

ポイント①「深く耕す」
植物は土の中に根を張り、養分を吸収して生長します。野菜でも、ダイコンやゴボウなど

根を利用するものはもちろんのこと、葉菜類や果菜類でも、根を土中に広く伸ばすことができれば、地上部も生育が良くなります。したがって耕す際は、深く(20～30cm程度)、また丁寧に耕しましょう。

ポイント②

「有機物の施用とPHの調整」

堆肥などの有機物は毎作施し、土全体によく混ぜておくのがポイントです。耕す前に1㎡あたり約2～3kgの堆肥を全面にバラまき、20～30cm程度まで深く耕しましょう。この時、石灰も一緒に施して土のPHを調整しましょう。PH4～6は酸性土、PH8～9をアルカリ土と呼びます。一般的に野菜を作る場合は、PH6.0～6.5程度が理想です。

連作障害を防ぐために

同じ場所でも同じ植物を何度も育てると生育が悪くなったり、枯れたりする場合があります。これを「連作障害」と言います。原因としては、前作で発生した病害虫が土中に残っていたり、土壌中の肥料成分が偏っている、と生育不良になります。

PH調整に必要な石灰量(g/m²)

調整したい酸度		pH5.6に	pH6.0に	pH6.2に	pH6.8に
土の酸度	pH 5.0	25～75	45～90	65～110	85～130
	5.5	20～50	30～60	45～75	55～85

家庭菜園・ガーデニング応援企画
お引き取り限定 肥料キャンペーン

J A 栗東市田舎の元気や「資材センター」では、J A 栗東市組合員限定で肥料や土づくりの資材を大特価で販売致します。春夏野菜の資材の準備にいかがでしょうか。詳しくは、今月号のメイクの折込チラシ(お引き取り限定 肥料キャンペーン)のチラシをご確認ください。

連作障害を防ぐための土づくりとは？
連作障害を防ぐには、土に腐葉土や完熟堆肥などには、有機質肥料や土壌改良材を混ぜるの効果が期待できます。有機質肥料は、生物の活動を減らすだけでなく、土の団粒構造を良くし、病気や害虫を予防する効果があります。土づくりと連作障害を防ぐことが出来ます。

土づくり



シャベルで深く耕し下層土と上層土を反転させる

今月のレシピ



ニンジンとしらす干しの寄せ焼き

ニンジンの甘みが引き立ちます。ニンジンが苦手な子どもにも

★材料(4人分)

ニンジン	大1本(200g)	A	小麦粉	大さじ5～6
しらす干し	50g		水	大さじ3
サラダ油			塩	少々

★作り方

- ① ニンジンはいスライサーで細めに千切りにする。
- ② ボウルにAを合わせ、なめらかになるまで混ぜる。①としらす干しを加え、なじむまで混ぜたら、8等分にして円く薄く形づくる。
- ③ フライパンにサラダ油大さじ1を熱し、②を4個並べ入れる。フライ返しで押さえながら中火で3分焼き、裏返して2分焼いて取り出す。残りも同様に焼く。

灯油配達のご注文は☎552-0533・552-7534まで。(株)JA栗東市

キリトリせん
点線部で切り取って毎月の富農情報ページをファイルに綴じることができます。